日吉台新聞

HIYOSHIDAI
平成28年3月1日

発行
日吉台学区自治連合会
日吉台学区まちづくり協議会
発行責任者
林堅太郎
編集責任者
野々口義信

題字は
4−11−2
梶谷清苑さん

大規模盛土造成地特定、公表へ

巨大地震地すべり対策

日吉台で10数ブロック存在

市・直ちに危険とはいえぬ

大津市は、巨大地震で大規模な地滑り災害を起こす恐れのある大規模盛土造成地について、改正宅地造成等規制法に基づき調査を行っていたが、このほど市内73地区１１３箇所、３４６ブロックを大規模盛土造成地として特定、３月に特定地を地図に示したマップを公表する。このうち、日吉台住宅地では、10数ブロックが大規模盛土造成地として特定され、公表予定であることがわかり、住民に波紋を投げかけている。

平成7年の阪神・淡路大震災、平成16年の新潟県中越地震で大規模に谷を埋めた盛土造成地で、地滑り被害が多発。このため国は、平成18年に宅地造成等規制法を改正、大規模造成宅地の巨大地震対策に乗り出した。市は、大規模盛土造成地の現状把握調査で対策をスタート。市内全域で、旧地形と現地形データを収集、データを重ね合わせ、盛土造成地の位置と規模を把握、簡易土質調査や、現地調査を行い、大規模盛土造成地を特定した。

大規模盛土造成地とは、盛土面積が３，０００平方㍍以上で地下水位が盛土前の地盤面以上にある谷埋め型大規模盛土造成地と、盛土前の地盤面の勾配が、20度以上あり、盛土高さが5㍍以上の腹付け型大規模盛土造成地の２種をいう。特定地を記したマップ公表については、地価にも影響し、個人の財産に関する情報でもあり、特定されると危険住宅地として扱われる恐れが強く、全国各地で慎重に取り扱う自治体が多い。市でもこの点を検討の結果、公表しないリスクよりも公表することのメリットが大きいと判断、3月公表に踏み切った。

マップは、リーフレットとして市民センターなどに配布、市のホームページにも掲載予定。公表について市開発調整課は「特定は、過去の地図と現在の地図を重ね合わせて作成、位置と規模を把握したもの。土質調査も安定度を出したものではないので、マップで公表された地区だとしてもただちに危険というわけではない。風評にまどわされないようにして欲しい」と強調している。

今後市は、特定地の土質調査、地下水観測、安定解析、ボーリングなど詳細調査を行い判断するが、地滑りの恐れがあると判断された場合、造成宅地防災区域指定と進む。指定されると、土地所有者に宅地の保全義務が生じ、災害防止のため市は、勧告、命令することができる。対策工事には、今の制度で２分の１の住民負担が求められ、良好な住宅地として購入、住み着いた住民にとって、寝耳に水の負担義務。市は「指定には、住民との合意形成が必要。住民負担の問題などを考えると詳細調査に踏み込むのは困難な状況」と話し、マップ公表後の対策事業の進行については宙ぶらりんの状態に陥る恐れも。ハードルの高さを認めている。

今後の健闘誓う

大臣表彰祝賀会

体育振興会

平成27年度生涯スポーツ優良団体文部科学大臣表彰を受賞した日吉台学区体育振興会（清水精一会長）の受賞記念祝賀会が1月末、大津市雄琴の琵琶湖グランドホテルで開かれた。

祝賀会は、学区自治連合会と学区体育振興会の主催。会場には、越直美・大津市長ほか周辺の自治連合会、体育・スポーツ団体関係者ら来賓はじめ、日吉台学区の各種団体代表ら約60人が出席。参加者全員で大津市民憲章を唱和し祝賀会がはじまった。

主催者を代表して濱崎博・学区自治連会長が「昭和60年、学区体育振興会と、学区自治連が同時に発足した。昨年30周年を迎えたが、体育振興会は、発足当時にいた人が今、そのまま残って活躍していただいている。学区住民の健康づくりにコツコツと努力した結果が受賞につながった」とあいさつした。

続いて清水・学区体育振興会長が、振興会のあゆみを紹介したあと「学区は高齢化が進行しているが、健康維持、向上、コミュニティ強化のため誰でも気軽に参加できる行事を中心に積極的な活動を進める」と決意を述べた。

このあと、来賓の越市長から、「日吉台のみなさんの長い間の献身的な取り組み、活動の成果に敬意を表したい」とお祝いの言葉が寄せられ、堀井幸治・市市民部国体・スポーツ推進監の発声で乾杯、今後の健闘を誓った。

学区体育振興会は、昭和60年４月設立。この年に学区民大運動会も開始、この大運動会は、日吉台学区のメーン行事として現在も続けられている。平成元年には、第24回大津市民体育大会でBブロック総合優勝を果たし、平成17年には、世代を超えてスポーツを楽しむ3世代ニュースポーツを始めた。平成20年、大津市スポーツ表彰受賞、平成24年には県スポーツ顕彰「生涯スポーツ優良団体」を受賞し、今回の文部科学大臣表彰につながった。

楽しい「かるた」

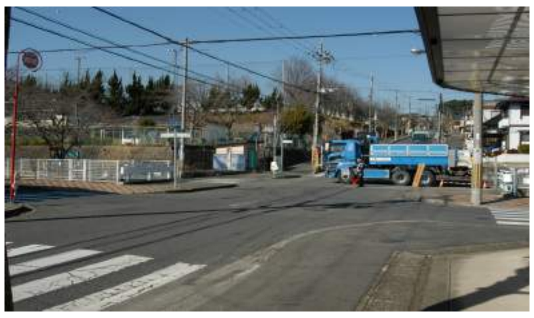
日吉台学区青少年育成学区民会議（角田豊会長）主催の「第31回少年少女かるた大会」が1月下旬、市民センターで開かれた。大会には、学区の幼、保育園児、小学生ら子どもたち約60人が参加、新年の楽しいひとときを過ごした＝**写真**。

この大会は、もう31年も続けられている新年恒例行事。いろはかるた、五色かるた、大かるた、将棋、オセロなど５種目の競技で腕と技、頭を使い、仲良く友達と競うゲーム。将棋やオセロでは、いっぽつ逆転の場面もあり、ふだんは仲良し同士の子どもたちもこの日は、真剣勝負。

大がるたでは、ホールいっぱいに広げられた絵札を求めて息を切らして走りまわる小学生らの姿もみられた。

安全運転お願いね

幼稚園前の危険交差点



いつ大きな事故が発生してもおかしくない危険な交差点。学区自治連、三丁目東自治会などは、危険交差点に視覚で危険性を訴える「ソリッドシート」の道路標示の設置などの安全対策を求めた要望書を県公安委、市教委などに提出する。

問題の交差点は、日吉台幼稚園そば、高橋川と中央通りが交差する田中米穀店前交差点。南北を通る中央通りと、高橋川を挟むように２本の東西道路が交差する、変則交差点。信号機はなく東西の道路には、一時停止の交通規制がしかれている。日吉台のほぼ中央部にあり、朝夕の通勤時には、大津市方面から雄琴方面へぬける抜け道になっており、通過車両もけっこう多い＝**写真**。

中央通りは、日吉台小からは急な下り坂。交差点では、通過のさい徐行義務が課せられるのにフルスピードで駆け抜ける車も多くこれまで何度となく人身事故が発生している危険な交差点。日吉台小や日吉台幼稚園の通学路でもあり、無謀な車が多いため通学する子供たちが、たまりかねて手製の注意看板を取り付け注意呼びかけに立ち上がっている。

会館改革

三西自治会

日吉台地区の自治会のひとつ、三丁目西自治会（岸本善春会長）は、自治会館改革に取り組んでいる。

26年度で、改革検討がスタート。最初に取り上げたのは、自治会館前にある掲示板改革。貼り方を押しピン式からマグネット式に変更することにした。押しピンだと強風が吹くと貼ってあるポスターがはがれ、それと同時に押しピンも路上に散乱することも。岸本会長らは掲示板を壁から取り外し、ばらしてブリキ板を貼り付け、前面に透明のビニールシートをつけ完成した。

今では掲示板は、マグネットで掲示できるようになり、雨が降ってもぬれなくなり快適。同会では、さらに第二段、三段の改革を検討している。

ひよしだいどっとねっと
親しまれるホームページ

一昨年4月、開設された日吉台学区自治連合会のホームページ「hiyoshidai.net」。

一カ月あたり1，000件程度のアクセスがあり、住民から「まちの動きがよく分かる」と好評だ。ホームページの運営委員らは、「住民と自治連をつなぐ場。工夫をこらしてもっと親しみやすい場づくりを目指したい」と話している。

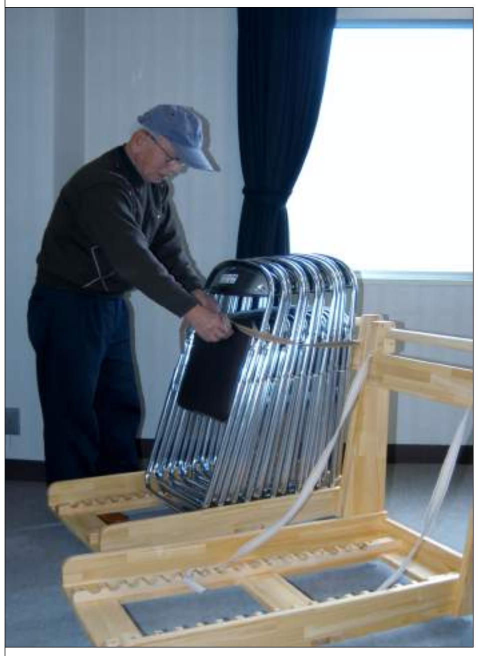
ホームページは、自治連が、活動状況と自治会が持つ行政情報を住民にスムースに伝えるのと日吉台をよその人にも知ってもらうのを目的に開設。西治彦・学区自治連事務局長を運営委員長に運営委がホームページづくりを進めている。

親しまれるページづくりでは、学区自治連の活動内容や規定、文書などを誰でも、いつでも閲覧できるようになっており、知っていると便利な情報も合わせて掲載している。また、コーナーのひとつ「みんなの広場」は、日吉台幼稚園の園児の日ごろの姿や幼稚園を支える父母らの動きを伝える「日吉台幼稚園がゆく」など、投稿者が自由に投稿できるようになっている。この投稿には、登録していれば特別な編集ソフトを必要としないのが、このホームページの大きな特徴のひとつになっている。

ホームページは、更新されていないと見向きもされない悩みを抱える。常に新しく、走り続ける必要があり、運営委は、最低限月1回の学区自治連役員会の開催に合わせ更新、今年創刊された「日吉台新聞」とも連携、イベント記事なども掲載、親しみやすくする。

ネットで「ひよしだいどっとねっと」と入力すると一発検索で、学区自治連ホームページのトップページにたどりつける。トップページには、日吉台新聞の各号や、団地行き電車バス時刻表、防犯不審者情報などスマホなどでも直接アクセスできるよう工夫をこらす。

パイプいすワゴン製作
団体向けに注文受付

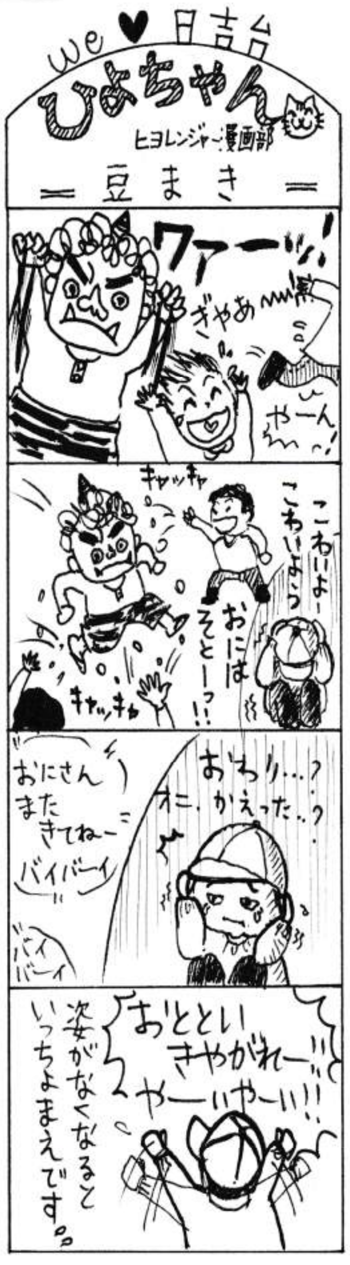


集会所などで、パイプいすの出し入れに不便を感じていませんかー。こんな悩みを抱えている人や団体のために日吉台２丁目の２丁目北集会所利用を考える会「ニキータ」（伏木秀文代表）は、パイプいすの出し入れと収納に便利な「パイプいす用ワゴン」を製作、希望団体の製作依頼を募っている＝**写真**。

ワゴンは、高さ約77・5㌢、幅51・3㌢のパイン材製。１台に17脚のパイプいすの積み込みが可能。パイプいすを収める底部には、ピッチが切り込まれ移動してもパイプいすが滑らないよう工夫、下部の自在車輪の動きで移動もスムーズ、軽く運び出せるようになっている。

ニキータメンバーの辻井忠生さんらが考案、辻井さんの工房で製作しているもので１台製作するのに２日間ぐらいかかるという。

ニキータでは、地域の活動グループからの依頼で注文生産に応じる。依頼、問い合わせは伏木代表（０９０・２７６２・６５３０）まで。


we ♥ 日吉台
ひよちゃん
ヒヨレンジャー漫画部
＝豆まき＝
ワァーッ！
ぎゃあ
やーん
キャッキャ
こわいよー
こわいようー
おにはそとーっ！！
キャッキャ
おわり…？
オニ、かえった…？
おにさん　またきてねー
バイバーイ
バイバーイ
「おととい　きやがれー！！
やーい　やーい！！
姿がなくなると　いっちょまえです。

鬼さんこうさんだ

日吉台幼稚園は、節分の日の２月３日、園内で「豆まき」を行なった。伝統文化の良さを子どもたちに伝える地域住民協力による毎年恒例行事。日吉台在住の木村正徳さんが鬼に扮し、「ガオー」と雄叫びをあげると、園児たちが真剣な表情で「鬼は外、福は内！」と大きな声で叫び、豆を投げつけて追い払った。

豆まきの後、鬼役の木村さんを囲んで子どもたちが一緒に豆を食べる場面も。「嫌いなものはなんですか」と尋ねられた木村さんは「炒り豆です」と即答し、周囲の笑いを誘った。

続く10日には発表会がおこなわれ、園児たちが歌と演劇を披露した。年長組の園児たちが創作したオリジナル演劇では、小さな海賊たちが迫真の戦闘シーンを演じ、観客の大人たちを驚かせた。総勢８人と園児数は少ないが、そのぶん一生懸命に協力して取り組む子どもたちの姿に、大きな拍手が送られた。

鬼に豆をなげつけおお喜びする日吉台幼稚園の園児たち

ひと日吉台

地域の支えに感謝

日吉中学校校長　細川俊行さん（60）

大津市日吉台2丁目12−10

ほそかわ・としゆき　昭和30年5月生まれ。昭和52年３月京都産業大経営学部卒業後、同年4月唐崎中教諭。58年4月、日吉中教諭、平成16年4月、唐崎中教頭、などを経て平成21年4月から現職。剣道3段、趣味は尺八。

日吉中の校長職７年。２、３年サイクルで異動するのが通常といわれる校長職。異例の長期滞留となり、しかも長い教員生活で勤務した中学校は、初任の唐崎中と日吉中の２校だけ。地元の強い働きかけがこの長期就任につながったとの話も伝わる。

日吉中の生徒はどんな子と尋ねると、人なつこく情が深い子が多い。すぐさま答えが返ってきた。地域に支えられた学校。市立中学校ではなく地域立日吉中学校と強調する。行き詰まりや困った時、なんどとなく地域の人に助けられた、と感謝の言葉を忘れない。

「不登校もやんちゃな子もいる。いっぱい課題もある。しかし、この学校の先生でこの学校を嫌う人はいない」

子供時代、厳しい女性教諭の姿をみて先生へ。本人は、なんとなくというが、大学を卒業時、合格していた県警警察官の採用に断りを入れ選んだ教職の道。子供時代の志望を貫いたかっこうだ。

県教委や市教委において教育行政職場も経験するが、やはり現場がおもしろいという。

「行政職にいると、評価で頑張りが現れるけど、現場では子供に跳ね返る。意気に感じます」

ざっくばらんで飾り気ない気質。若いころは、中学生にとっては少し年齢の離れたお兄ちゃん。今でも校長室に子供たちの姿がしょっちゅうみられる。県教委在籍中に関わった児童、生徒の不登校問題の対応。頭のなかから離れない。

「学校へ行けなくなっている子は増えている。原因はさまざま。そんな子供たちのため、少し年上の若い人たちに入ってもらって助けになるメンタルフレンド派遣事業をＮＰＯでやれないかを考えている」

教員生活の終盤を見据え、新たな目標をかかげている。

掲載希望のニュース、お知らせなどがありましたら編集部までお寄せください。
連絡先
y-nonoguchi@nifty.com
日吉台新聞編集部